

SOS ニュース

「介護職員 30 万人不足」

～25 年度時点、厚労省調べ～

介護に携わる職員の数は、高齢化がピークを迎える 2025 年度時点で 30 万人程度不足する見通しである事が、厚生労働省の調べでわかった。各都道府県の推計によるもので、25 年度には約 250 万人の職員が必要だが、現状のままでは供給が追いつかない。厚労省は 15 年度から職員の賃上げや介護未経験者の活用といった対策を強化し、人手確保を急ぐ。介護職員は、13 年度で非常勤を含め約 177 万人。仕事の労力が重い割に賃金水準が低く、慢性的に人出不足が続いている。厚労省によると昨年 11 月の介護サービスの有効求人倍率は 2・51 倍で、全産業の 2 倍以上だ。一方、介護が必要な高齢者は軽度の人も含め約 564 万人。団塊の世代が 75 歳以上になる 25 年度にはさらに膨らむ。厚労省の推計では、25 年度時点で約 250 万人の介護職員が必要になる。厚労省はこれまで 12 年度時点の数から 100 万人増やす必要があるとしてきたが、25 年度にどれだけ職員数が確保できるかの見込みはなかった。そこで各都道府県に推計を求めたところ、25 年度時点の職員数は 220 万人程度となる見通しとなった。12 年度時点からは約 70 万人増える計算だが、それでも必要人数には 30 万人足りない。介護職員の不足を埋めるため、厚労省は 15 年度から職員の賃金を 1 人あたり平均月 1 万 2 千円上げる賃上げを実施する。サービス単価である介護報酬を改訂する。

・・・介護問題は職場でも関係無いとは言ってられない。働き盛りの 40 代、50 代が親の介護をかかえてストレスフルになっている。先日 SOS で行った「職場と介護」をテーマにしたサテライト研修も人事系の参加者多数で関心の高さが光った。

※ 参考：H27.1.16 日本経済新聞より